

2017年4月12日

## 第1章 会社

担当：宮川

本章の目的は、会社とはなにかについて検討することにある。会社形態の種類を知り、私的財産制度を原則とした会社が、所有と経営の分離の中でどのように行動し、利益を上げる仕組みになっているかを学ぶとともに、投資家が会社を取引するための市場の役割について書かれている。

### 1.1 企業の4形態

#### 1) 個人企業

一人の人間が所有して経営する企業形態 ～所有者の分離がなく。所有者が無限個人責任を負う

#### 2) パートナーシップ

二人以上の所有者がいて、パートナーの種類によって無限責任と有限責任を負うことが可能

#### 3) 合同会社（有限会社）

経営権を持つ有限責任のパートナーによって経営される

#### 4) 会社

- ・会社形態の特徴は所有者と切り離された別人格（法人）であること
- ・法人として契約締結や資産保有の権利を持ち、義務を負うこと
- ・法人としての義務であるため、株主、経営者、従業員、顧客は会社の債務に責任を持たない

会社の設立

法律によって設立し、定款を定めなければならない

会社の所有者

会社はだれもが自由に所有し、所有者の人数に制限はないことが原則となっている

会社法人の税金

会社は別の法人格であるため利益に対しては二重課税の問題が存在する。

### 1.2 企業の所有と支配

#### 1) 会社経営陣

取締役会

：どのように会社が運営されていくべきかの規則を作成し、経営方針を設定し、会社の業績をモニターする。

経営最高責任者（CEO）：取締役会で決定した規則や経営方針を実現する

最高財務責任者（CFO）：財務マネジャーとして CEO に直接報告を行う

## 2) 財務マネジャー

投資意思決定

：投資案件の費用と便益を秤り、株主に付加価値をもたらすかどうかを検討する

資金調達意思決定

：投資資金をどのように支払うか ～自己資本か負債か

キャッシュマネジメント

：日々の業務運営に必要な現金の確保

## 3) 企業の目標

－会社の所有者によって決定される

## 4) 会社内の倫理とインセンティブ

エージェンシー問題

株主（プリンシパル）と経営者（エージェント）は利害が一致しない。経営者が株主の利益よりも自分の利益を優先することによってエージェンシー問題が発生する。

CEO のパフォーマンス

会社のパフォーマンスが悪いと株主は取締役会に働きかけて CEO を首にすることができる

会社の倒産

負債を支払えなくなると会社の支配権は株主から債権者に移り、清算される。

## 1.3 株式市場

株式市場は株主にとっての投資価値を測り、株主が自由に売買できるようにするため、流動性を確保し、適正な株主の価値を決定する。

### 1) 発行市場と流通市場

発行市場：会社が株式を発行する市場。会社と投資家の間に存在する。

流通市場：株式発行後に引き続き投資家同士で売買する。

### 2) 世界の大きな株式市場：取引高と時価総額によって規模が測られる。

### 3) NYSE：現物市場。1人のマーケットメーカー

### 4) NASDAQ：コンピューター市場。複数のマーケットメーカー

## ■ コメンテーターへのクイズ

- 1) 財務マネジャーの仕事について説明してください。
- 2) エージェンシー理論について説明してください。
- 3) 会社の倒産を所有権の変更という観点から説明してください。

## ■ コメント

- 私有財産制度の原則は資本主義の大きな前提である。会社の仕組みを検討していく上で私有財産制度が重要な役割を果たしていることが理解できた。また会社は法人という別の人格であることから成り立っているという点について意外性をもって理解ができた。
- 株主と経営者以外のエージェンシーコストの具体例が理解しにくかった。たとえば従業員や取引先や地域社会の間に生じる関係はだれがプリンシパルでだれがエージェントなのかうまく説明ができない点で難しいと思う。
- 会社の倒産を所有権の変更として捉える点が興味深い。これまでは単に業績の行き詰った企業が解散するに過ぎないとだけ考えていた。
- 13p では、会社にはエージェンシー問題が存在すると言っている。しかし、もし経営者が株主の意思に反する行動を取るならば、株式は自由に売買されるのであるから株主はその会社の株式を売却して株主をやめることができる。それによってエージェンシー問題は解決するのではないか？株主は経営者が気に食わないなら株を売却すればいい。これでエージェンシー問題は解決するはず。なにが困るのだろうか？
- 14p では、株価が会社の業績に関するバロメーターになると言っている。しかし、株価の変動は必ずしも個別企業の業績のみによるものではなく、マクロ環境の変化によるものも大きいはず。なぜ「業績に関するバロメーター」と言えるのだろうか？経営者は納得するのだろうか？